

令和5年度卒業式（令和6年3月22日） 校長告辞

本日、小山工業高等専門学校を卒業あるいは修了される皆さんに、心よりお祝い申し上げます。入学されてからこれまで幾つもの関門を突破し、めでたく本校を巣立って行かれますこと、誠に喜ばしく思います。また、これまでご子息ご息女をたゆまず支え、ここにあたたかく見守りくださいますご家族の皆様にも、お慶び申し上げます。

本校は「技術者である前に人間であれ」を教育理念とし、実践的かつ創造的な技術者を早期から育成する国立の高等教育機関です。皆さんはその厳しいカリキュラムを終え、人間的にも大きな成長をとげました。大いなる人生の次のステップに進む機会を目前に控え、技術者としての決意を新たにしておられることでしょう。本校全教職員が皆さんを心より祝福し、今後の活躍に期待しておりますが、本日は私が代表して皆さんに2つ饒のメッセージを送らせていただきます。

1つ目は「挑戦すること」についてです。皆さんもよくご存じのアップル社を立ち上げ、アイパッドや 아이폰を世に送り出したアントレプレナーと言えばスティーブ・ジョブスです。「失敗はチャンスに繋がる」との信念のもとに実践し続けた結果、世界でもっとも成功した起業家の一人となり得たことはよく知られています。挑戦することを最も評価し、失敗を恐れないという風土のもとにチャレンジ精神が培われたようですが、何の失敗もせずいきなり目標を達成することは実社会ではなかなかありません。ですから「挑戦に失敗はつきもの」と柔軟な心で受け入れ、つまずいても「より優れたもの」に改良しようと努力を重ねることが大切です。日本にも古くから「改善」の精神風土があり、今では世界語にもなっています。また、一回挑戦したという刺激により、人の遺伝子に組み込まれた「あるスイッチがオン」になり、更なる挑戦への連鎖が起こりやすくなるという研究結果もあるそうです。皆さんはこれから新しい環境に身を置くこととなりますが、是非挑戦する姿勢を保ち続けてください。

2つ目は「目標を思い出すこと」についてです。先日アメリカ大リーグで活躍する大谷選手がテレビのインタビューに応じたある答えに大変感銘を受けました。練習が苦しい時にどう

やって乗り越えればよいか、という野球少年の質問に対して、「目標に届かないことで苦しむ時はある。しかし、目標を持てるということ自体が幸せなことだと気づけば、練習で苦しむのも実は幸せなことなのだと理解できるようになった」と発言をしていました。皆さんはそれぞれに人生の目標を持っていると思います。これから社会で働く、あるいは進学するなど新しい環境に身を投じる皆さんには、楽しいことが沢山待っているでしょう。しかし、時には苦しいこともあるかもしれません。しかしそんな時でも大谷選手の言葉通り、目標を思い出せば前向きの心を持ち直すことができるでしょう。また、新しい世界に希望を持ちながらも不安な気持ちがよぎる時もあるかもしれません。しかし、皆さんは決して未知の真っ暗闇を手探りで歩くようなことはなく、小山高専で身に着けた技術者としての技量が必ずやその足元を照らしてくれるでしょう。その先にある目標に向かって自信を持って歩いて行ってください。

最後になりましたが、今年度も優れた卒業生・修了生を無事に送り出せることは小山高専にとって大きな喜びです。この時を迎えられたのも、本校を応援して下さった保護者の皆様を始め、後援会の方々、熱心に指導を実施された教職員など、多くの方々の協力があったことです。その全ての関係者の皆様に、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

それでは卒業・修了される皆さんの輝かしい未来にエールを送ります。「皆さんの未来にとびっきりの幸あれ。元気で行ってらっしゃい。」

令和6年3月22日

国立高等専門学校機構

小山工業高等専門学校

校長 堀憲之